



# 柏葉



第37号  
令和4年1月21日(金)  
福島県白河市立東北中学校  
発行責任者 校長 渡邊 泰昌  
「自分の未来を切り拓け！」

## 「第二反抗期」

## ～親として～

反抗期が、子供の成長にとって必要なのだということを、きちんと認識すること。独立したいという要求と、それにともなう行動をできるだけ認めてやることです。

(自己主張の学習と訓練)

同時にある程度の反抗を起こさせるような扱い方が必要です。常に、子供の要求を受け入れてしまうのではなく、望ましくないと思われる要求については安易に認めない。時には断固として、拒否することです。

(がまんの学習と訓練)

父親の出番です。父親の役割は第二反抗期が出現する青年期に最大のものとなります。子供の反抗の前に立ちふさがり、おとなの男としての立場から発言します。時には身体を張って決する必要があるときもあります。一人親の場合は、自分の他に誰かが父親役、母親役になると良いでしょう。

(参考：依田 明氏・高野 清純氏)

## 子どもを伸ばす「聞き方」

小さな口・大きな耳

- 1 まず、こちらから声をかけよう。  
「子どもの方から先にあいさつすべきだ」  
「黙っていても心は通じ合っているはずだ」・・・これを捨てましょう。
- 2 できるだけ聞き役にまわろう。
  - ① あいづちをうちながら聞く。
  - ② 話を最後まで聞く。
  - ③ 「もっと聞きたいわ」とうながしも必要。
  - ④ 子どもの言ったことを、オウム返しでも良いので返してやる。
  - ⑤ 子どもの言ったことを別の言葉で言い直したり要約して返してあげる
  - ⑥ 話をしている子どもの気持ちを理解し、それを言葉にして返してやる。  
※④～⑥を「能動的な聞き方という」



- 3 できるだけふれ合いの場を工夫する。

(参考：親業訓練「能動的な聞き方」より)

## 子どもを伸ばす「話し方」

- ① 親の考えや感情を子どもに伝えようとする時、「わたし」を主語にしたメッセージをつくることです。「あなた」を主語にしたメッセージは、命令や指示、説教やおどかしになってしまい、子どもは素直に受け入れません。
- ② 子どものしている行動を具体的に述べ、そのことから親がうける影響をはっきりと告げ、最後に自分の感情を述べて下さい。  
(これを「三部構成のわたしメッセージ」といいます)  
(例)  
×「なんで、すぐに返事しないのよ」  
(あなたが主語になるメッセージ)  
○「何回よんでも返事がないと  
どうしたのかしらと心配になるわ」  
(わたしを主語としたメッセージ)



(参考：トーマス・ゴードン氏)